

# らこら

Racotte  
vol.1

2012  
04  
FREE

あなたの想いをカタチにする みんなが輝く情報紙

発行 ● ながおか市民協働センター 市民協働センターPRオープニングイベント実行委員会



## Contents

### 特集① 市民協働のまちづくり

対談／森市長×羽賀友信

協働のまちづくりに関わる実践者たちの取り組みと提言

ながおか市民協働センターの紹介

### 特集② 大学と地域 協働のまちづくり

市内大学インタビュー

【連載】月刊寄付白書

【連載】イベントレポート／雪しか祭り

【連載】協働のまちづくりの潮流



市民が集まれば何か始まる  
「場の効用」というものがありますね。

# 羽賀友信

特定非営利活動法人  
市民協働ネットワーク長岡  
代表理事

# 森民夫 市長

市民は自由な束縛のないところで知恵を出して  
自由に活動することが大事なんです。

【ららこつて・スペシャル対談】

特集① 市民協働のまちづくり

長岡の協働のまちづくりを語るに、まず協働の拠点の原点とも言うべき「ながおか市民センター」を市長がどう評価されているかということをお聞かせください。

市長 市民センターができた頃というのは、必然的な時代の流れの中に長岡もあり、ちょうど市民活動の芽が出始めたころだと思います。長岡で今活躍しているNPOが歩き始めたころでした。そういった団体が

市民センターや市民活動団体助成金なども使って、育っていったということかもしれません。

羽賀 市民センターの会議室を無料で使えて、会議が開けるということがすごく大きかったと思います。全国の活発な地域を見ていると「場の効用」というものがあると思っています。役所へは用がなければ来ないですが、用がなくても人が集まれば何か始まるという、逆転の発想が大事だと思って

いる。私は1階の地球広場において、こういう効果があるのかと日々実感していました。また市民センターの使い方を条例で決めなかったというのが重要だったと思っています。市民が進化すれば、市民センターも進化します。つまり私は生命体だと思っています。

市長 それだけは意識しましたね。市民活動とはちょっと違うかもしれませんが、フリースペースで子ども達が勉強するようになった、だから学習コーナーを増やしまし

た。そういう柔軟性は大事にしてきました。また自由に使えるフリースペースを作ったから、市民団体がどんどん自分たちの活動の発表の場として使うようになりましたね。あの発表の意欲はすごいなと思っています。大手通のああいっ場所発表ができるっていうのはうれしかったようですね。

この4月からは「市民協働型シティホール」という、これまで聞いたことのなかったコン

セプトが掲げられたアオーレ長岡がオープンしますが、これはどのような考え方なのでしょうか。

市長 市役所が中心ではなくて、市民活動を行うナカドマが中心にあるんです。語弊があるかもしれませんが、そこに市役所をつけたした。市役所はつけたしなんです。ハレの舞台を高める一つの装置ですね。

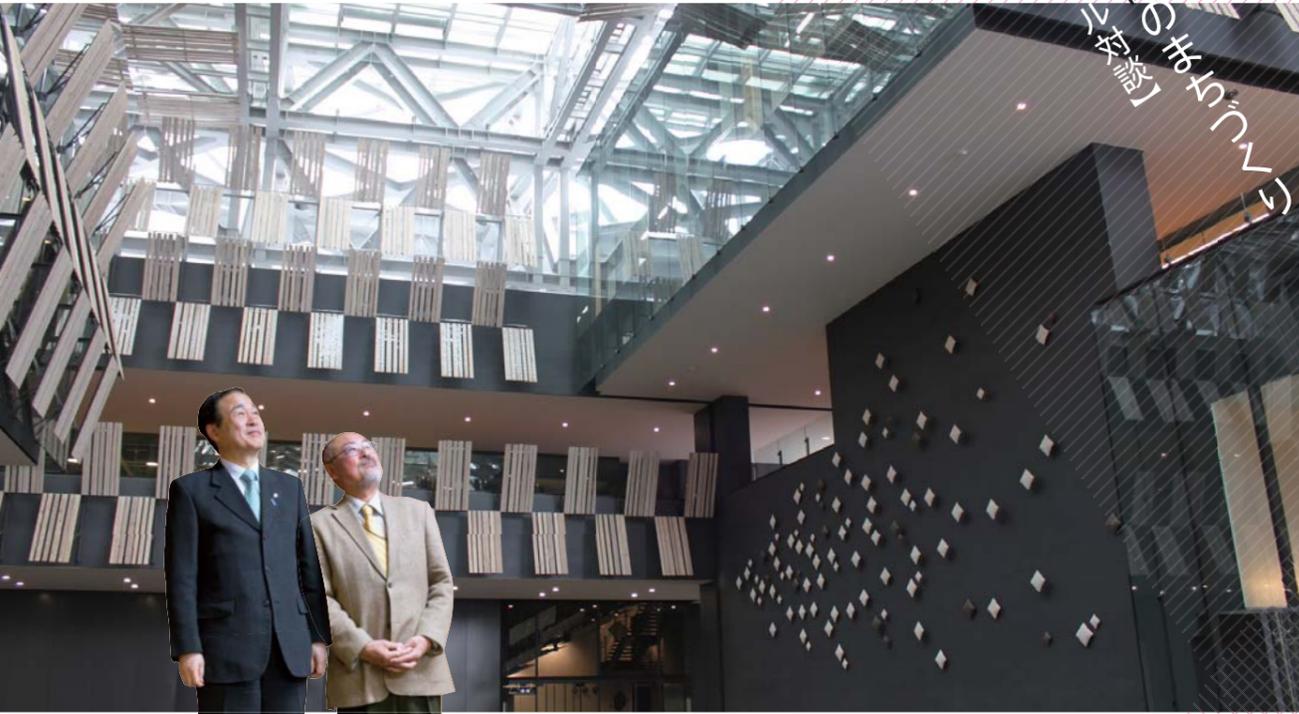
羽賀 シティホールは市役所じゃない、市

民の使い勝手が主体となっているというのが進化しているポイントだと思います。  
市長 市民センターから引き継ぐこととして、とにかく料金が安い、自由だということに大事にしています。まちの中心部でいいところだったら、どんどん発表したい団体があるんだということが、市民センターで自信がつかましたからね。それが自然とつながっていったということでしょうか。

次ページへ続く >>>

## 森 民夫 市長

市民協働センターは、NPO同士のコミュニケーションの場です。違う分野の人が出会う場が大事なのだと思います。



## 羽賀 友信 代表理事

市民協働センターは、多様な市民の特徴を生かせるアイデアのプラットフォームですね。

またそれに合わせて市民協働条例も制定が予定されています。この条例のポイントはなんですか。

羽賀 一番の特色に、子どもでもわかるというコンセプトを入れたことです。子どもの育成が次世代の育成です。それが条例の中に盛り込まれた。そういう視点を入れ込めたということが一番評価できていると思っています。

市長 市民は市役所がやることの下請けになるというイメージがありますが、これはよくないと思っています。市

民は自由な束縛のないところで知恵を出して、自由に活動することが大事なんです。一方で行政は公平性の確保など本来行政がやるべきことをしっかりやる。これをはっきりさせたいというのが一番の想いです。市民活動は行政の都合ではなく、というのは市民センターからつながっている考え方だと思っています。

具体的な協働促進の取組として議論されていたものの1つに「寄付」の促進というものがありませんか。

がでしょうか。

市長 これは長岡から提起していかねばいけません。市民活動団体助成金は、行政が指図しないようにしたいが、市の予算を使う以上は議会のチェックなども必要です。本来市民活動の資金は、寄付などで自由に見えるようになるのが理想なんです。

羽賀 東日本大震災の際に、義援金と支援金の区別のキャンペーンを張りました。義援金は行政ベースで公平に配分をする。支援金はニーズの高さとス

特集① 市民協働のまちづくり  
【心をつなぐ・スペース・コミュニケーション】

ピードでNPOが主体となって支援するための資金という区分けをしました。これをきちんと区別して、支援金としてNPOが使う資金も集めるということが重要なんです。

アオーレ長岡の中にできる、協働のまちづくりの拠点となる「市民協働センター」にどんな期待をしているのでしょうか。

市長 NPO同士のコミュニケーション



なかなかつながることができないわけです。しかし、そこでつながる事によって新しい力が生まれます。

それと、市民の声が愚痴に終わらないシステムを作るということが大事なのだと思います。個人が言うと愚痴になることが、集まって話してまとめれば、意見になるし、さらにそれが政策提言までいく事になりますよね。

市長 場所というのはやはり大事なですね。そこに相互のコミュニケーションをとることが大事だとわかっているコーディネーターがいれば、もっといい

の場なんですよね。好きなものだけでやっていると視野が狭まってしまいます。違う分野の人が出会う場が大事なのだと思います。

羽賀 そうですね、ここが市民のコミュニケーションの場となって新しいものが生まれる場になってほしいですね。つまり多様な市民の特徴を活かせる、アイデアと人のプラットフォームですね。そのことが成熟して複雑化した社会の解決策をつくっていくのだと思います。例えば、日本人と外国人は普段



## 多様性

長岡には、国籍、年代、地域、職業など色々な人たちがいます。市民一人ひとりが違った個性・力を持っています。その力を合わせることで新しい価値が生まれます。



## 未来市民

「子ども達を未来市民と呼ぼう」ここで生まれ育った未来市民が、長岡の文化を学び、地域とつながり、愛着を持つことが、長岡の未来を明るくものにします。



## 災害

長岡は戦災、災害を乗り越えてきた町です。さらに毎年の大雪もあります。その歴史や土地柄が、どこかに依存するのではなく「自分たちでやらなければ」という協働の文化を育ててきました。



## 場の効用

「用あるから集まる」だけでなく、用がなくても集まれる場所が必要です。きっとそんな場から、おもしろいアイデアが生まれます。みんなそんな場をいっぱい作りませんか。

市民協働条例 検討委員会 外部委員からのメッセージ



早瀬 昇

社会福祉法人 大阪ボランティア協会 常務理事

市民協働センターは  
囃す人になれ!

大阪には「ダメでもともと」という文化があります。それは自由に色んなことを言える雰囲気なんです。囃す(けなす)人もいるけど、囃す(はやす)人もいます。市民協働センターはこの「囃す人」になるのが役割なのだと思います。エベレット・M・ロジャーズという人がイノベーションの理論としてこんなことを言っています。イノベーター



と言われる革新者は全体の2.5%しかいません、そのイノベーターに対して、「おもしろいな」と言って支持するアーリーアダプター(初期採用者)と言う人が13.5%います。このアーリーアダプターが周りから信頼される人であれば、その話を聞いて賛同するアーリーマジョリティ(初期多数採用者)が34%出てきて、これで過半数を超えるというものです。革新的なことを言う人を囃してあげる信用ある人が、実は革新的なことを起こすのに重要なのです。



石川 治江

NPO法人ケア・センターやわらぎ 代表

ワークショップで出た意見を  
実際の活動に盛り込む

協働に関する条例は、全国多くの自治体で作られています。長岡は、その条例を作る過程を、非常に丁寧に行ってきたと思います。市民ワークショップで多くの意見を拾ってきた事は、すごく評価できる取組であったと思います。



そのワークショップで出てきた意見を、これからどれだけ実際の活動に盛り込んでいけるか大事だと思います。それをしなければやった意味がなくなります。またその条例づくりの過程に加わっていなかった人も含めて、仲間を増やしてやっていくことが何より重要になると思います。

市民は生まれてから死ぬまで市民です、そういった視野をもってこれからのまちづくりに取り組んでもらえればと思います。継続してやるのが何より重要です、一つ一つやったことを経験知として活かしていってもらえればと思います。



木村 吉郎

希望が丘コミュニティセンター センター長

あそびの城で  
繋がる地域の絆

放課後子ども教室「希望が丘あそびの城」は希望が丘小学校、希望が丘コミュニティセンター、希望が丘児童センターが協働で児童厚生員と地域ボランティア約130名余が「地域の子は自分の子のようにみんなで育てたい」をスローガンに、放課後の子どもたちにあそびを通して、地域との関わりを作っています。

共働き、核家族が多くなった現代、子どもたちの多くは親以外の大人と触れ合う機会が極端に少なくなっているのが現状のなか、あそびの城を通して希望が丘の子どもたちは、沢山のひとと触れ合い地域を知り、地域の誇りを養いながら成長しています。



成長しているのは子どもだけではなく、「あそびの城」の活動を通して高齢者の居場所づくりや地域コミュニティの絆作りにもなっています。130名以上のボランティアが関わって地域づくりをする地域力に希望が丘のパワーを感じています。



渡辺 仁

キズナの森運営協議会 理事

住民のみなでつくる  
キズナの森

平成16年7月13日の水害で大きな被害を出した刈谷田川は、河川改修により4haの残地が生まれ、そこに防災公園(仮称:キズナの森)が現在建設されています。



この公園の土地は、長岡市(旧中之島)と見附市にまたがる土地であり、その利用方法を考えるため住民参加型の意見交換を重ねた結果、『住民で管理しなばねこてや』と言う想いのもと、両市住民から成る任意団体キズナの森運営協議会を結成されました。

行政に頼るだけではなく、両市住民が主体となり公園の維持管理を通して、地域間の交流を深めることを目指し、防災や様々なイベントの企画を考え実施するといった活動をしています。

これからもキズナの森運営協議会は住民の声を大切にして、様々な分野のコミュニティがこの場所でどんどん生まれ、住民の誰もが主催者になれる、そんな居場所を作っていきたいと思っています。是非皆さまと一緒にこの公園を育ててください。



高橋 ゆたか

NPO法人にいがたエジソン学園 理事長

大人達との関わりが  
子どもを成長させる

NPO法人にいがたエジソン学園は、子どもたちに科学技術を通して学ぶ楽しさや想像力を養う支援を行なっています。子どもたちがロボットを作って競い合うロボコンカップの開催や市内外の小学校をはじめとするクラブ活動の支援にも力をいれ、教師でも親でもない立場の大人との関わり場の提供し子どもたちの育成に力を注いでいます。

NPO法人を設立して10年、この10年様々な苦労がありました。しかし、この苦労があったからこそ、現在他の市民活動団体や学生への支援や後押しができて



いるのではないかと感じます。経験を活かした運営方法や助成金の取り方などのアドバイスを行っています。これからは、もっともっと若い世代の人たちがNPOとして活躍してほしい。そのために私たちの持っている必要なノウハウはおしみなくどんどん次の世代に伝えていきたいし、それがこの長岡の地域活性につながると考えています。



村上 揚市郎

社団法人 長岡青年会議所 理事長

自分たちでやろうという  
気概が大事

本年度のスローガンは「気概」~青年の青年による誇れる長岡の創造~です。我々青年はまちづくりを「行政がしてくれる」と思ってはいないでしょうか。よいまちを創るには、市長だけでなく、行政だけでなく、企業や市民などあるいは、市政に無関心な青年世代をしっかりと巻き込み、地域一体となる取り組みを行わなければ、全く意味のないものになってしまうし、他に誇れる長岡の創造はできないのです。



青年の青年による誇れる長岡の創造こそ、我々長岡JCの市民協働に係わる目的であり、本質であると考えます。

我々青年がまちづくりに参画することは、地域の発展に必要な「責任」であり、今まで育ててくれたことへの「恩返し」であると考えます。精一杯背伸びをしながらまちづくりを行えば、それは個人の成長として返ってきます。

多くの先輩から受け継がれている情熱と様々な周りの方々からの協力をもって、地域の発展と企業の発展に、そして「明るい豊かな社会の創造」に向けて努めて参ります。



# 協働センター

# なると

2012.3.2  
「1日店主  
のもーれ!長岡」  
.....  
イベントレポート

3月2日(金)まちなかキャンパス長岡において、「1日店主のもーれ!長岡」が開催されました。「1日店主のもーれ!長岡」とは、毎月第4金曜日にアオーレ長岡内の市民協働センターにおいて、月替わりの店主を迎えて、①店主のまちづくりの取組を聞く「トークセッション」、②店主プレゼンツの美味しい飲み物食べ物をつまみに交流をする「オープン交流会」、の2部構成の交流会です。長岡を良くしたい、おもしろいことをしたい人達がここで出会い、具体的なアクションが生まれる場です。

今回は、市民協働センターオープン1ヶ月前の特別企画として、ながおか市民センターによる「市民活動応援メニュー説明会」と合わせて開催されました。店主には、市民協働条例検討委員会でご尽力いただいた(社福)大阪ボランティア協会の早瀬昇さん、富山在住ながら長岡のまちづくりと長い付き合いの(株)地域交流センター企画の明石博行さんとあおいさんご夫婦、長岡ではおなじみの居酒屋「なじらてい」店主の川上修さんからそれぞれのお勧めのお酒、お料理を用意していただきました。

この日の参加者はなんと145名!名札に「自分ができること」「協力してほしいこと」を書き、それを見せ合いながら、様々なつながりが生まれた交流会となりました。

ながおか市民協働センターは、市民協働の「拠点」として市民活動団体及び地域コミュニティの活動支援、各種相談対応など市民の公益的な活動をサポートします。

- ①市民活動をサポートする ・協働なんでも相談窓口の開設 ・人と人のネットワークの構築
- ②情報を収集し発信する ・市民協働、交流のホームページの制作 ・情報誌の発行
- ③資源を集め、つなぐ ・NPOを支える資金の情報提供、コーディネート ・モノや人、団体などの交流
- ④まちなかキャンパス長岡と連携する ・協働を進めるコーディネーターの育成 ・まちづくり講座の開催

会場名称	概要	定員
会議室 A (約63㎡)	小規模の会議、会合、講座等に利用可能。議室とは可動式のパーティションで仕切られているため、繋げて一つの部屋としても使用可能。	約36人
会議室 B (約41㎡)		約18人
会議室 C (約50㎡)		約24人
エントランスロビー	展示、イベント等に利用可能。普段使いは打合せ場所として自由に使用可能。	

※各会議室には長机・イス・ホワイトボード・液晶テレビ・DVDプレーヤーが備付  
※その他、要相談でプロジェクター・マイクセット・展示用パネルなど用意可能

【申し込み先】ながおか市民協働センター ☎0258-39-2020

開館時間 ● 午前8時～午後10時  
休館日 ● 年末年始(12月29日～1月3日)  
場所 ● 長岡市大手通1丁目4番地10 アオーレ長岡 西棟3階  
料金 ● 無料(営利・政治・宗教を目的とした活動は利用不可)  
予約方法 ● 電話にて利用日の3カ月前の初日から先着順にて受付  
例) 4月15日を利用日とする場合、1月1日から予約申込可能



特集② University & Region  
**大学と地域  
 協働のまちづくり**



**必要とされる、だから成長する。**

木宮 歩  
 長岡大学 入試学生募集部 部会長

私は昨年、千人近くの中高生の前で話す機会がありました。そこで投げかけた「日本の未来は明るいか?」という質問に対し、「はい」と答えた学生は残念ながら一人もいませんでした。さらに昨年末に大手調査会社が行った新成人の意識調査で、全国新成人男女500名の内、「日本の未来は明るい」と回答した若者は0.6%の僅か3名でした。しかし、「自分たちの世代が日本を変えてゆきたいと思うか」という質問に対しては、「そう思う」と答えた若者が76.6%にのぼります。多くの若者は、日本の未来に期待はしていませんが、自分たちが変えなければいけないと考えています。決して日本を諦めては

いないのです。

それを裏付けるように私が勤務する長岡大学では、近年の学生に変化を感じます。学生は真面目に授業を受けます。当たり前なことだとお叱りを受けそうですが、私が過ごしたバブル真っ只中「大学は卒業さえすればなんとかなる」という大学生活を振り返ると隔世の感があります。

そして学生は地域に飛び出します。過疎化、高齢化が進む中山間地で「地域づくり」に取り組みます。地域の課題・問題に直面し、解決策を考え、行動します。学生たちに聞くと、そこにはボランティアという意識はありません。「楽しいからやっています」という答え

が返ってきます。なぜ楽しいのか、答えはストレートです。「必要とされるから」。若者は、必要とされ、期待に応えることで、達成感、充実感、満足感を感じ、大きく成長していきます。

大学では、正解の無い問題・課題に自分なりの答えを出す問題解決型の学びを行います。その理由は、社会が「問題を解決できる人材」を必要とするからに他なりません。絶望に寄り添っている今の状況から、希望に満ちあふれた社会に変わるためにも、大学と大学生に期待し、声を掛け、そして必要としてください。

地域は学生を育てます。地域で育った学生が地域を変えます。



**長岡大学**



**勉強は楽しく、遊びは真面目に**

松本和明  
 経済経営学部 人間経営学科 教授

長岡大学のすぐ近くにある東山は、数多くの施設と豊かな自然に恵まれた魅力的な地域です。

この地域の良さを広く知ってもらうため、毎年5月に東山まつりが催されており、長岡大学の学生も運営に携わっています。運営だけではなく学生が自ら企画立案したスタンプラリーがイベントのひとつとして加えられています。こうした活動が地域の活性化の一役を担っています。

今日では講義で身につく学力のみでない、数多くの能力を社会は学生に求めています。そうした力を身につけるためには、先に挙げた東山まつりなど様々な活動に自発的に参加する、すなわち「真面目に遊ぶ」ことが重要なのです。

私は常日頃から学生には問題を投げかけます。問題に対して考えさせ、自分なりの見解を持たせます。それが物事に対して興味・関心を持つことに繋がります。学生たちには考え、そして楽しみながら様々な活動に意識を持って取り組んでもらいたいですね。

学生が関わるプロジェクトの一つに、三島の「越後みしま竹あかり街道」があります。これは、越後三島・脇野町本町通りの町並み800mの沿道に地元里山から切り出した竹で製作した灯籠を並べ、ローソクのほのかな灯りに照らし出される、歴史や伝統のあるたたずまいを歩き楽しむイベントです。学生はこのイベントの準備を最初から最後まで経験します。イベント会場に並べる竹灯籠のデザインから、竹が何本必要なのか、地元の人達との役割分担をどうするのか等々、一つのイベントを作るのに様々なことを考えなければいけません。お客さんとしてイベントを見るのではない、部分的な協力をするだけでもない、すべて苦労してやることによって感動が生まれます。

このような経験をすると学生のその後の姿勢は大きく変わります。学生にはチャンスは与えますよ。それに食いつくか、食いつかないかは学生次第です。食いつけば損はさせませんよ。



**長岡造形大学**



**すべて苦労してやることによって感動が生まれる**

上野裕治  
 学生部長 建築・環境デザイン学科 教授



**長岡技術科学大学**



**ボランティアは活動を通じたコミュニケーション**

上村靖司  
 工学部 准教授  
 VOLT of NUTS 顧問

長岡技術科学大学にはVOLT of NUTS (通称ボルナツ)というボランティアサークルがあります。このサークルは中越地震をきっかけに、学生たちが作ったサークルです。

ここでは、学生が代々培ったネットワークで地域とつながり、課題を見つけ、活動しています。大学生活では味わえない新鮮な体験ができるからこそ、学生たちが自発的に活動しています。ボランティア活動を通して、お年寄りや子どもと仲良くなり自然と多世代交流が生まれ、そこで生まれたコミュニケーションが学生たちの大きな刺激となっています。また、地域も学生たちとのかわりをきっかけに地域の絆が深まっているようです。

その一方、実際にアクションを起せる学生は2割ほどにすぎないのが現状です。全学生の半数がやってみたいと思いつつも一歩踏み出せない事がアンケート調査で分かりました。そんな一歩を踏み出せない生徒の背中をポンッと押してあげる事が私たちの役目かもしれないと感じています。

# 1 東日本大震災で動いた日本の寄付 3889億円

昨年3月11日に発生した東日本大震災により、寄付やボランティアなど支援活動の輪が広がりました。『寄付白書2011(日本ファンドレイジング協会)』によると、震災前年の日本における寄付総額が1兆922億円だったのに対し、この震災のみで集まった寄付総額は3889億円にも上りました(義援金・支援金合計、2011年8月現在)。これは日本の15歳以上人口の76.4%が寄付をした計算になります。

もしかしたら、この記事を読んでいる人の中にも寄付したという人がいるかもしれません。もちろん、その寄付は「被災した人々を支援できれば」という想いから生まれたものだと思います。その寄付金が現地で

使われ、復興支援に役立てられる…寄付の持つ力の典型的な例だと思います。しかし実は、寄付するという行為、社会を変える可能性も大いに秘めているのです。

月刊・寄付白書のコーナーでは、寄付の意味を今一度考え、長岡市内に存在する寄付やボランティアの事例紹介を通じて、その現状を明らかにしていきたいと思ひます。



## 連載 月刊寄付白書 寄付の持つ本当の力

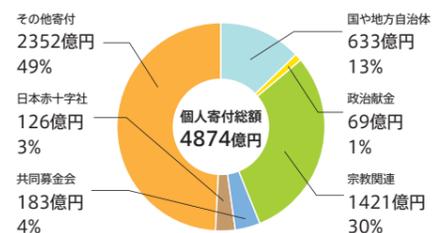
# 2 共同募金会への長岡の寄付 7050万円

まず、寄付の全容をつかむために、日本全体の寄付から見てみましょう。『寄付白書2011』によると、2010年の日本の個人寄付総額は4874億円と推計されます(表1)。寄付実施人数は3733万人で、15歳以上人口の33.7%に相当しています。

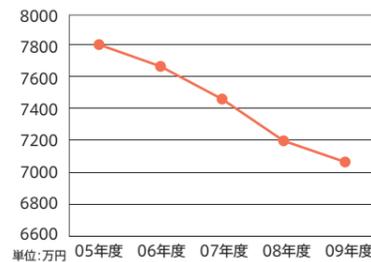
次に民間の団体である共同募金会への寄付に注目してみましょう。秋になると見るあの赤い羽根です。2010年度の全国寄付総額は183億円と推定されます。では、長岡市はどうでしょう。共同募金会HPによると、2009年度寄付総額は長岡市で約7050万円となっており、残念

ながら減少していることがわかります(表2)。長岡市の15歳以上人口を約24.5万人とすると、1人300円程度、寄付している計算になります。コーヒー約1杯分の金額を年に1回は寄付しているということです。

【表1】個人寄付総額(推定) ※寄付白書2011より抜粋



【表2】長岡市 共同募金会への寄付総額



「300円」という金額、あなたは多いと感じたでしょうか。少ないと感じたでしょうか。300円も出すのはちょっと…という人も中にはいると思います。でも、その使い方によっては出してもいいかなと思いませんか。

共同募金会HP「はねと」によると、集まった寄付は県内の社会福祉施設の改修工事に使われたり、送迎用車両の整備に使われたりしています。他にも障害者作業所の水道光熱費に充てられたり、市民活動団体やNPOの活動機材購入費に充てられたり、地域の防犯・災害用ジャンパー、テントへと姿を変えたりしています。地域での子どもたちとお年寄りとの交流会にも使われています。

想像してみてください。自分が払った寄付金が誰かの笑顔を生みだしている、そんな社会を。共同募金会HP「はねと」上には「ありがとうメッセージ」として、各団体からの一言も寄せられています。

そう、あなたの想いで誰かが笑顔になり、社会が少しずつ変わっていく。あなたの寄付は社会を変える可能性を秘めているのです。

# 3 寄付でみんなが笑顔になる社会に。



# 雪しか祭り裏側レポート! 2012.2.18&19 inハイブ長岡周辺

市民協働的に見た雪しか祭りのココがすごい!!

## その1 イベントの協賛者(寄付者)がなんと320団体



どうしてそんなに寄付が集まるの?

長岡を愛し、古くから伝わる伝統を大切にしている長岡市民主導のまつりだからこそ企業が賛同してくれ、多くの方から寄付を頂いています。そしてこのお祭りを大切にしたい、子どもたちに伝えたいという運営側の熱意が協賛者に伝わっているからでしょうか。

イベント担当者 渡辺さん

## その2 運営スタッフのほとんどがボランティア 2日間で約800人



どうしてボランティアが多いの?

ボランティアさんが活動しやすく、やりがいのある活動になるように色々な意見を聞きながら、主体的に活躍できるように運営側がサポートしています。毎年参加のリピーターボランティアさんも多いです。

ボランティアと一緒に作る楽しみは何年やってもたまらない!

## その3 毎年新しい仕掛け(イベント)がうまれている



どうしてそんなにアイデアがあるの?

イベントに係わるそれぞれが意見を持ち合い、話し合いを重ね新しいアイデアがうまれてくるんですよ。なんと全体会議のほかにそれぞれの企画担当者会議は昨年10月頃から始まって、何度も会議を重ねます。今年は新企画で、雪上卓球と山古志のアルパカがやってきました。

## 来場者に聞きました!

Q今日の感想は??  
今回初めて雪しか祭りに参加しました。天気が悪く残念でしたが、子どもの喜ぶ顔を見て私たちも楽しくなりました。



松下さんファミリー

## 雪しか祭りの苦悩と期待する事

さまざま方が参加する会議での意見集約は大変ですが、みんなで祭りを盛り上げていくという気持ちが大いからこそ活発な意見が出るのだと思います。こうして住民主体で盛り上げる祭りは今後必要だと思います。今後はもっともっと若い世代からの参加も期待し、長岡の冬を盛り上げていきたいです。



長岡雪しか祭り実行幹事長 深見さん

## 取材レポーターの感想

沢山の方がかわり作り上げるこの雪しか祭りに長岡の市民力を感じました。「参加して楽しい」「運営して楽しい」というこの祭りにすっかりとこになっているからこそ、寄付が集まったり、運営ボランティアさんが多いことが分りました。そして実行委員会のみなさんの団結力があるからこそこんなに素敵な祭りが運営できるのだと感じました。

問い合わせ  
雪しか祭りについて  
長岡雪しか祭り実行委員会(長岡商工会議所内)  
☎0258-32-4500  
ボランティアについて  
ながおか市民協働センター ☎0258-39-2020

# 協働のまちづくりの潮流

人類を救う  
長岡の思想

## 第1回「立場を超え協働した戊辰戦争からの復興」

「長岡には、協働の気風がある」と、市民協働条例検討委員会の羽賀委員長がたびたびお話をされます。戊辰戦争とその復興の中で生まれた「常在戦場」「米百俵」「互尊独尊」という思想、農村の暮らしを支えてきた「結」や「講」、雪国の暮らしの様々な協働の知恵、近年で言えば中越地震や東日本大震災への対応、このような話を上げれば枚挙に暇がありません。これらの長岡の歴史が積み重ねてきた協働の思想と実践に学び「これからの長岡の協働のまちづくりに活かさないか」というのがこのコーナーの趣旨であります。

まず第1回目は、戊辰戦争からの復興の過程において、様々な立場の人たちが、その立場を超え協働し長岡の未来を作ったというお話を紹介したいと思います。本稿は、河合継之助記念館館長の稲川明雄氏からご指導をいただき、また稲川さんの各著作を参考文献として使わせていただいております。

### 士族と町民が同じ席に座った「ランプ会」

薩摩藩・長州藩を中心とした新政府軍に敗れた長岡は、焼け野原からの復興となりました。その復興の過程で注目すべきは、侍も町人も一緒になって長岡の新しい姿を議論していたということです。現代で言えば、役所と市民が膝詰で

議論し、長岡復興のビジョンを描いたということでしょうか。

そのことを表す象徴的なものに「ランプ会」というものがあります。ランプ会とは、町人岸宇吉の家で、ランプの灯を中心に、新しい産業・文化・技術などを語り合う会であり、ここから戦後の長岡の工業が大きく発展したと言われていました。この会が当時いかに画期的なものであったのか。稲川明雄著「互尊翁」から引用すれば「第一に士族と町民たちが同席できたこと。第二に出席者に郷土意識、いや長岡藩の復活を求める意識が高まったこと。第三に教育や政治に人びとの関心が向いたこと」とあります。

当時を考えれば「士族と町民」というのは、まだ封建的な身分制度が残っており非常に距離があるものでした。精神性で言えば、忠義を何よりも尊ぶ士族を、生きていくための商売をする町民には理解できるものではありません。また士族がはじめた戊辰戦争で、町民は家を失い、財産を失いました。町民の士族への不満が募っていたことは想像に難しくありません。

### 町の未来は民間の

### 自主的な集まりから生まれた

そんな中でも、このランプ会を起こした岸宇吉は、三島億二郎などの士族を会合に参加させました。三島億二郎は士族に「今は士族も町民も変わりなく、商人と

同じように働くことだ」と説き、岸宇吉も「狭い町人根性を捨て、新しい知識を摂取して、商売に役立てよう」と町民に説いたそうです。士族が真ん中でもなく、町民が真ん中でもない、ランプを真ん中に置いて丸くなって話し合ったという情景は、未来(ランプ)の光を見つめ、互いの立場を超え、共に学び合い発展していこうという気風を感じさせます。

岸家の離れ座敷は、長岡市民にとってはおなじみの山本有三の戯曲「米百俵」の舞台でもあります。このことは、町の未来を作っていく話し合いが、民間の自主的な集まりの中で行われていたという証拠なのだと思います。

稲川氏は「ランプ会だけではない。ひとつのグループだけだったらつづれる。相反するグループが一緒に勉強したことに意義がある」とおっしゃいます。事実、大橋佐平が作った「共愛社」や野本恭八郎が作った「誠之社」など様々な会がこの頃起こり、士族や商人、僧侶、農民まで多くの人が未来の長岡について語り合いました。

このように様々な立場の人たちが一緒に話し合い協働していくということは、将来が見えにくくなっている現代においても非常に重要なことだと感じられます。現代の私たちは、お酒を片手に、おいしい料理でも囲みながら未来の長岡について語り合おうじゃありませんか。

## Event Information

### ながおか市民協働センターオープニングイベント

ながおか市民協働センターのオープンを記念し、長岡の協働のまちづくりをより一層活発にしていくために、市民協働センターPRオープニングイベント実行委員会では、次のイベントを予定しております。

#### 1 みんなの「まちづくりへの想い」をいっぱい集めます！伝えます！

##### 「みんなの協働まちづくり事例集(仮称)」を発刊します(6月発刊予定)。

長岡には多くの人が協力しあって取り組まれているまちづくりの事例がいっぱいあります。多くの人に「そんな取組を知ってほしい」また「知ることで自分ができることを考えてほしい」そんな想いから生まれた企画です。皆さんの取組を応募してください。

応募方法 ● 6月発刊(予定)号に、同封されたハガキご応募してください。

##### 「長岡市民を数珠つなぎ」市民紹介インタビューを行います。

長岡には色んな個性・特技をもった人がいっぱいいます。そんな市民を「一人残らず紹介したい!」という想いから生まれた企画。1人の市民からスタートし、テレホンショッキング方式で、つぎつぎに人を紹介してもらいます。それを、一人ひとり映像でおさめていきます。とりあえずは目指せ100人! 撮りためた映像は、協働センターでご覧いただけます。

放映場所 ● 大型ビジョン 館内15か所設置ディスプレイ

#### 2 みんなの想いに共感し、繋がる場を作ります!

##### 「1日店主『のもーれ!長岡』」を開催します。

1日店主「のもーれ!長岡」とは、毎月第4金曜日にアオーレ長岡内の市民協働センターにおいて、月替わりの店主を迎えて、店主のまちづくりの取組を聞く「トークセッション」、店主プレゼンツのおいしい飲み物食べ物をつまみに交流をする「オープン交流会」、の2部構成の交流会です。長岡を良くしたい、おもしろいことをしたい人達がここで出会い、具体的なアクションが生まれる場です。

開催日 ● 毎月第4金曜日19時~21時(今回は、4月27日(金))  
会場 ● アオーレ長岡西棟3F ながおか市民協働センター

#### 3 みんなの活動を表彰します!

##### アオーレギネス表彰(仮称)

多くの市民や団体との協働を図りながら、長岡のまちづくりに取り組んでいる特に顕著な活動・イベントを表彰するものです。素晴らしい取組を表彰することで、協働のまちづくりを広く知ってもらうことを目的としています。

応募 ● 10月頃を予定

#### 4 市民協働センターPR

##### 市民協働センタープロモーションビデオ「協働物語 会礼家のお話」が放映されます。

アオーレ長岡にて、市民協働センターPRのプロモーションビデオが流れます。会礼(あおれ)家の人々が様々な場面で、ながおか市民協働センターを利用し、楽しく長岡ライフを過ごす物語です。第1話は4月1日から放映され、ぞくぞくと続編が流れます。アオーレ長岡にお越しの際は、少し気を留めて探してみてください。

放映場所 ● 大型ビジョン 館内15か所設置ディスプレイ

##### ながおか市民協働センターの「マスコットキャラクター」を募集します!

市民協働センターのマスコットキャラクターを公募します。市民協働センターは、市民協働の拠点として、多様なまちづくりのアイデアや色んな特性を持った人や団体、また資源が集まり、それがつながり合う場です。そんな「多様なものが集まり、つながる」イメージを込めてキャラクターを作ってみませんか?

応募期間 ● 4月1日~5月31日  
選考期間 ● 6月1日~7月20日  
発表・表彰式 ● 8月2日(予定)  
応募方法 ● ながおか市民協働センターに設置してある応募用紙、またはHPから応募用紙をダウンロードしてください。

表彰 ● マスコット採用 長岡市共通商品券3万円 ほか

## Special Thanks

●らこってスペシャル対談の写真撮影 海津優里さん(長岡造形大学3年)

●協働センターってこんなとこ写真撮影 松本勝男さん、西澤卓也さん

## 編集後記

アオーレ長岡内に市民協働センターがオープンしました。実はこの市民協働センターができるまでに3年前から市民協働条例検討委員会が開かれていました。これは長岡市が設置した委員会ではありませんが、市の職員も委員になっているメンバーも一緒になり本当に長い時間をかけて、条例や協働のまちづくりを進めていくための施策について検討してきました。それが市民協働センターという一つの形になったことは感慨深いものがあります。この情報誌もその議論の流れの一つから生まれたものです。

私たちの町は、多くの人たちの助け合いで成り立っています。本号で取り上げた「雪しか祭り」もそこで汗を流している人たちの想いを馳せなければ、毎年「当たり前」のように行われているイベントに過ぎないかもしれません。この情報誌では、そんな協働の取組をこの紙面で紹介し、また町にある課題を取り上げ、皆でまた新しい活動を作っていけるそんな紙面づくりを目指しています。今後ともご愛読よろしくお願いたします。

## らこって FREE

2012.4.1<vol.1>

【発行】  
ながおか市民協働センター  
市民協働センターPR  
オープニングイベント実行委員会

〒940-8501  
長岡市大手通1丁目4番地10  
シティホールプラザアオーレ長岡  
西棟3F ながおか市民協働センター

TEL.0258-39-2020

Fax.0258-39-2900

Mail. kyodo-c@ao-re.jp

URL. http://nkyod.org

大学生の  
皆さん!

長岡をおもしろい町に  
しようがんばっている  
人たちと交流しませんか?

大人の  
皆さん!

大学の先生・  
学生さんと交流し、大学の力を  
みなさんの活動に  
つなげませんか?

第2回

1日店主  
のも〜れ!!  
長岡

一緒にいかが?

### 1日店主のも〜れ! 長岡とは

シティホールプラザ「アオーレ長岡」内の市民協働センターにおいて、毎月第4金曜日に月替わりの店主を迎えて開催する2部構成の交流イベントです。店主にまちづくりについての取り組みを聞き、店主おすすめの飲み物・食べ物をつまみながら参加者同士の交流を深めます。長岡をもっと住みよいまちにしたい、ご自身の活動をパワーアップさせたい、何か面白いことを始めたい、などなどどんな方でもお気軽にご参加ください。

4.27 金 19:00~21:00 <2部構成>

## 大学・学生と一緒にまちづくりやろ〜れ!

### 1部 トークセッション

大学として、先生個人として学生と一緒に地域で協力できることを事例と合わせて紹介してもらいます。

### 2部 オープン交流会 (90分)

店主プレゼンツのおいしい飲み物、食べ物をつまみに交流をします。

会場・主催 ● ながおか市民協働センター(長岡市大手通1-4-10 アオーレ長岡内 西棟3F)

店 主 ● 長岡3大学教授



長岡造形大学  
建築・環境デザイン学科  
教授 上野裕治



長岡大学  
経済経営学部  
教授 松本和明



長岡技術科学大学  
工学部  
准教授 上村靖司

会 費 ● チケット購入制⇒1,000円券(100円×10枚綴り)

店主・基本メニューどちらにも利用可能

※チケットは追加購入も可能。※学生のみチケット学割有(初回購入分だけ半額の500円にて提供、2回目以降は通常料金)。

【基本メニュー】ビール(300円/チケット3枚) お茶(200円/チケット2枚)

ノンアルコールビール(200円/チケット2枚) おつまみ 月替(地域の特産物を提供)

【店主メニュー】当日、店主にて発表

【申込・問い合わせ先】ながおか市民協働センター

Tel.0258-39-2020 Fax.0258-39-2900 E-mail kyodo-c@ao-re.jp URL <http://nkyod.org>